

長期モニタリング計画に基づく聞き取り調査の結果について

1. 対象団体

エコツーリズム検討会議の構成員や提案事業に取り組む16団体を対象に、この資料の巻末に掲載した調査シートの内容について2024年度に関する聞き取り調査を行い、14団体から回答を得た。

No.	団体名	No.	団体名
1	環境省	9	知床小型観光船観光船協議会
2	林野庁	10	知床羅臼観光船協議会
3	斜里町役場	11	知床ウトロ海域環境保全協議会
4	羅臼町役場	12	斜里山岳会
5	知床斜里町観光協会	13	羅臼山岳会
6	知床羅臼町観光協会	14	知床財団
7	知床ガイド協議会	15	オホーツク総合振興局保健環境部 環境生活課 知床分室
8	知床羅臼ガイド協議会	16	ガイド事業者

2. 結果

①「知床エコツーリズム戦略」の基本方針について

【基本原則】	該当
遺産地域の自然環境の保全とその価値の向上に貢献している。	13 団体
世界の観光客への知床らしい良質な自然体験を提供している。	8 団体
持続可能な地域社会と経済の構築に役立っている。	10 団体

【エコツーリズムを含む観光利用の推進にあたって必要な視点】	該当
事業、ツアーが、地域主体・自律的・持続可能である。	6 団体
事業、ツアーでは、共有・協働・連携などのネットワークが構築されている。	9 団体
自然環境の保全に配慮している。	13 団体
利用者の自然生態系に関する理解が促進されている。	9 団体
事業及びツアーが、地域の文化・歴史的背景を踏まえて実施されている。	8 団体
利用者へ自己責任の原則が認知され、管理責任の分担が行われている。	5 団体
事業、ツアーは知床のブランド価値を高めるという視点がある。	8 団体
事業、ツアーは順応的管理型で実施されている。	9 団体

【回答を辞退した団体のご意見】

- ・本年度は自団体によるツアー開催がなかったため。
- ・回答することによるメリットが見出せなかったため。

「知床エコツーリズム戦略」に則り、特に力を入れて取り組んでいることや、新たに始めた取組があるか

■特に力を入れている取組

- ・観光船の利用者に知床の海の魅力を、海鳥（特にケイマフリ）を通して知ってもらう事。
- ・観光船で通過する海岸の探勝地を中心に海岸ゴミ拾いを行っている。コロナ禍は中断していたが2023年より再開し、2024年は実施回数も増やした。
- ・知床サステナブルフェスの開催。
- ・カムイワッカ湯ノ滝のぼりの運営（93日間）。現地への人員配置と利用者指導等の実施。
- ・ルサ地区におけるサケマス観察等のツアー実施（羅臼町委託）。
- ・半島先端部地域立ち入り者へのレクチャー実施と受講証発行。
- ・地元小中学校を対象とした、ヒグマ授業の実施。
- ・知床五湖での園芸スイレンの除去活動の実施（環境省委託）。

■新たに始めた取組

- ・知床の中でも資源性が極めて高く魅力の凝縮された場所であるカムイワッカ湯の滝において、自然現象に由来するリスクが現認されている場所であることから、管理運営体制の構築等の検討事業を実施した。
- ・（観光船事業）安全設備の強化。人員を増やすなど、より安心してご乗船いただける環境を整備した。
- ・知床インタープリテーション全体計画の開始。
- ・知床五湖スイレン除去の一般参加者募集開始。
- ・知床国立公園指定60周年・世界遺産登録20周年記念事業として、SHIRETOKO Adventure Festivalの開催。アウトドア映画祭等の実施。

■特に意識している点

- ・（観光船事業）加盟事業者それぞれの安全に対する意識を高め、不測の事態に備えて連携できるように整備。その上で知床の価値を安心して感じてもらうよう日々努めている。
- ・（観光事業）事業実施主体、事業者の責任の明確化。
- ・ツアーの中に必ずお客さんが体で体験するコースを作る事。

②エコツアーリズムに関わる利用者・参加者の数や意識、行動の状況について

利用者・参加者の数	
増加している	6 団体
減少している	1 団体
どちらともいえない	7 団体
未回答	0 団体

利用者・参加者の意識	
変化している	5 団体
変化していない	3 団体
わからない	6 団体
未回答	0 団体

利用者・参加者の数や意識、行動について、気付いた点や気になる点

■利用者・参加者数の変化

- ・カムイワッカ湯の滝利用者数が前年比で約 1,500 人増加し、約 7,500 人の利用があった。
- ・シャトルバス乗車人数について、2023 年と 2024 年で運行日数は異なるが、1 日あたり乗車人数を比較すると、約 60 人増加している。
- ・（観光船事業）コロナ前よりもインバウンドのお客様が増えた。
- ・外国人登山者の増加が目立つ。
- ・知床関連事業に興味を持って頂ける方は多いのだが、参加者の重複が目立つ。今後は参加者の多様化に注力したい。
- ・施設運営において利用者数は、2022 年度で底を打ち回復傾向が続いている。特に、外国人利用者数の伸びが顕著。特定の時期においては外国人の割合が半数以上を占めている。

■利用者・参加者数の意識・行動

- ・カムイワッカ湯の滝をキーワードとして検索している人が増加した。
- ・湯の滝利用者アンケート結果では利用者の満足度は高い状態で推移している。
- ・五湖においては、ヒグマの出没が常態化している場所であるため、ヒグマに会わないよう行動するという意識が必要であり、ヒグマとの接近事例がある中では、利用者の数を最小限に制限する必要がある。
- ・外国人登山者の入山時間が遅いのが気になるが、すべての利用者が山頂を目指しているわけではなく、自己の責任において行動しているように感じられる。
- ・イワウベツ川周辺においては、カメラマンなどの利用者が長時間居座り、ヒグマに接近している事例もあるため、道路の通行を制限するなどして排除することも考えたほうが良い。
- ・ウトロの観光船事故以来、安全面を気に掛けるお客様が増えた。
- ・立入が認められていない箇所への侵入など、観光客の問題行動が増えた印象を受けている。

- ・ うみどり WEEK を 10 年以上続けているが、ケイマフリの知名度が確実に上がっていると思う。
- ・ ツアー参加者がただガイドの後ろを説明を聞きながら歩くだけではツアーの満足感が得られない。都会では味わえない体験を自分の体で体験することが醍醐味と感じるようになってきている。
- ・ 閑散期対策や客単価の上昇などのメリットがある一方、窓口案内やルールの普及などの業務が高コスト化している。公共交通やツアープログラムなどのサービス提供の体制が充分でないと感じる場面もある。
- ・ 今後は、繁忙期の混雑対策やルール普及の取り組みが求められる。

③事業、ツアーで使用しているフィールドや地域の自然環境について

気になることや心配なことがある 8 団体
 気になることや心配なことはない 5 団体

■ ツアーで使用しているフィールドの自然環境について

- ・ （カムイワッカ）落石や気象条件などによるリスクをいかに低減していくか引き続き検討していく。
- ・ 雪解けが早いと、知床連山縦走路の水場確保が困難になりつつある。
- ・ 網走山岳会所有の愛山荘の管理が心配。
- ・ 山岳地域における英語インフォメーションが脆弱。
- ・ 知床五湖のスイレン繁茂。
- ・ 大規模なカムイワッカでの道路工事が続いているが、大量の伐木や構造物の設置が行われており、自然環境への影響を懸念。今後の見通しも不透明で不安がある。

■ その他地域一般の自然環境について

- ・ カムイワッカ地区ではないが、国立公園内で主にカメラマンとヒグマとの接近は自然公園法改正後も状況が改善されていないと感じる。
- ・ エコツーリズム戦略の基本方針のとおり、遺産地域の自然環境の保全とその価値の向上することが必要であり、過度な利用により自然環境を悪化させることのないよう利用の調整を図るべきである。
- ・ ケイマフリ以外の海鳥（オオセグロカモメ・ウミネコ・ウミウ）が減少している。
- ・ 暖冬による、積雪量、湖面状況の変化。
- ・ 流氷減少（温暖化）。
- ・ ヒグマに対しての慣れ。
- ・ 温暖化での雪解けが早いことによる色々な問題が起きていること。
- ・ シカの食害での「ナニワズ」が消え、草原が笹とワラビ群生地になり春草原での子育てをする鳥が来なくなった。「トウキョウトガリネズミ」も見なくなった。
- ・ クマのシカのハンティングができなくなり、知床の魅力が低下している。
- ・ 今は公園外の方が自然が豊かに感じる。
- ・ 大量出没の後であっても、公園内でのヒグマの目撃遭遇は続いており、危険事例も顕在化しており、観光利用に影響を及ぼしている。公園法の改正による餌付け・接近禁止規定の遵守と厳格な運用が必要。

④その他（知床のエコツーリズムに対する意見、事業・ツアーを実施していて気づいた点）

■インバウンド・オーバーツーリズムの影響等

- ・インバウンドが復活したことにより来訪者が増加することは望ましいが、オーバーツーリズムによる自然環境への影響を最小限にする配慮を欠いてはいけない。保護と利用のバランス感覚が重要。
- ・全国的にも観光地への集中によるオーバーツーリズム対策が必要であり、インバウンドを推進する理由が不明であり、商業ベースで考えるものではなく、何よりも自然環境の保全が優先されるものである。五湖やカムイワッカなど、高いお金を払わなければ自然を体験できないというシステムも疑問に思う。全ての人気が気軽に知床を訪れて、自然の恵沢を享受することにより知床の価値が向上し、交通、宿泊、物販等による反射的な利益を得ることができるという考え方もあると思う。

■改善点の提案

- ・来訪者を含めた関係者の多様化が顕著に進んでおり、餌やり禁止などの当地区での行動に必要とされるヒグマ絵の知識、総じて自然に対して守っていただきたい事に対して、ルール周知とネイチャーリテラシーと言える意識醸成が現状に対して不十分と感じる。端的に自然への畏怖が薄れているとも言える。
- ・知床半島全体における情報（特に気象・海象）の向上のためにも電波改善の必要性は高いのではないかと考えている。
- ・今行っているツアーは基本エコツアーに沿って行っているため、エコツアーを意識しているガイドはいないと思う。今規制して入れない場所に対して国立公園は国民の公園であり、特に国有地は1年に1～2回とか何年に1回でもよいので、国民に見てもらおう機会を作るべきで、見てもらって、このような自然なので、規制をしている事を理解してもらおうことが大切だと思う。隠して自然を守る時代ではないと思う。
- ・観光船事故を契機としたリスク対策や携帯基地局問題などは、遺産地域での課題にも関わらず、地域連絡会議やエコツーリズム検討会議での情報共有や合意形成がほとんど機能していない印象がある。再度整理が必要であり、エコツーリズム戦略の見直しに期待する。
- ・特に地域連絡会議については、位置づけや構成団体、議事進行のあり方についての確認が必要。

■運行判断と欠航理由説明の必要性

- ・より慎重な運行判断をすることにより出航回数が減少、海況が運行基準内（波1m、風8m、視程200m）でも知床岬までの海況情報が乏しいため、「リスク回避」の選択が多くなった。そのため出港地では「欠航理由」がわからず説明が必要になる。

以上

知床のエコツーリズムを含む観光利用に関する聞き取り調査シート

知床世界自然遺産地域をより良い状態で維持するために、地域の関係者の皆さまを対象にエコツーリズムを含む観光利用に関する取組みをお伺いしています。いただいた回答は、貴重なデータとして知床世界自然遺産のモニタリングや関連する会議に活用され、将来にわたって知床の自然の恵みを持続的に利用していくことに役立ちます。回答者や個別の回答がそのまま公表されることはありません。

今回の調査では、2024年1月から12月までの1年間の状況でご回答ください。

団体名			
事業名			
事業内容			
記入日	令和 年 月 日	記入者	
		連絡先 TEL	

問い合わせ・連絡先

（受託事業者）

公益財団法人 知床財団

羅臼地区事業係 宮腰

TEL：0153-87-2828 FAX：0153-87-2876

Email: m_miyakoshi@shiretoko.or.jp

公園事業係（斜里）仁木

TEL：0152-24-2114 FAX：0152-24-2115

Email: k_niki@shiretoko.or.jp

以下の質問は、貴団体の事業やツアーについて直近の1年間の状況についてお伺いするものです。貴団体が実施している事業や、催行しているツアーが該当すると思われる箇所の□にチェックの記入をお願い致します。

- ① 「知床エコツーリズム戦略」の基本方針に沿って事業を実施しているかお伺いします。

【基本原則】

- 遺産地域の自然環境の保全とその価値の向上に貢献している。
- 世界の観光客への知床らしい良質な自然体験を提供している。
- 持続可能な地域社会と経済の構築に役立っている。

【エコツーリズムを含む観光利用の推進にあたって必要な視点】

- 事業、ツアーが、地域主体・自律的・持続可能である。
- 事業、ツアーでは、共有・協働・連携などのネットワークが構築されている。
- 自然環境の保全に配慮している。
- 利用者の自然生態系に関する理解が促進されている。
- 事業及びツアーが、地域の文化・歴史的背景を踏まえて実施されている。
- 利用者へ自己責任の原則が認知され、管理責任の分担が行われている。
- 事業、ツアーは知床のブランド価値を高めるという視点がある。
- 事業、ツアーは順応的管理型で実施されている。

直近の1年間で、「知床エコツーリズム戦略」に則り、特に力を入れて取り組んでいることや、新たに始めた取り組みなどがあればご記入ください。

- ② 利用者・参加者の数や意識、行動の状況についてお伺いします。

直近の1年間で、貴団体の事業の対象者又はツアーの利用者・参加者の数は、

- 増加している 減少している どちらともいえない

直近の1年間で、貴団体の事業の対象者又はツアーの利用者・参加者の意識（特に、自然環境への配慮や世界自然遺産・知床についての知識があるかなど）は、

- 変化している 変化していない わからない

利用者・参加者の数や意識、行動について、気付いた点や気になることがあればご記入ください。

③ 直近の1年間で、事業、ツアーで使用しているフィールドと地域の自然環境について、何か気になることや心配なことはありますか。

ある ない

「ある」方は内容をご記入ください。

④ その他、知床のエコツアーリズムに対するご意見など、事業・ツアーを実施してお気づきのことがあればご記入ください。

ご協力ありがとうございました。